

令和元年度 事業報告書



公開フォーラム（2019.11.30 綾町）



ボランティア作業（2020.2.20 川中）

綾の照葉樹林プロジェクト連携会議
九州森林管理局・宮崎県・綾町
（公財）日本自然保護協会・（一社）てるはの森の会

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）

令和元年度 事業報告書

目 次

I	第Ⅳ期短期行動計画と令和元年度実施事業一覧.....	1
II	令和元年度 事業報告（※短期行動計画順に、実施した事業名・報告書記載者名を掲載）	
1	項目：協働の体制づくり ― 綾の照葉樹林プロジェクトの推進のための基盤整備	
1-3-①	綾プロ運営体制の見直し（連携：てるはの森の会）	3
1-3-②	プロジェクト事務局運営事業（連携：てるはの森の会）	4
3	項目：照葉樹林の復元 ― 照葉樹林への復元を推進する	
3-1-①	復元手法の検討（連携：九州森林管理局）	5
3-2-①	人工林から照葉樹林への復元事業（宮崎県）	6
3-2-②	復元見本林の整備（連携：日本自然保護協会）	7
3-3-②	照葉樹林復元の動態モニタリング等（九州森林管理局）	8
3-4-①	照葉樹林復元ボランティア作業の実施（九州森林管理局）	9
4	項目：照葉樹林の調査研究 ― 照葉樹林を適切に保全管理するための 調査研究を推進し、反映する	
4-5-①	市民参加による自然林の復元調査及び自然林の調査（日本自然保護協会）	10
5	項目：照葉樹林を通した環境教育 ― 環境教育を推進する	
5-1-②	環境教育のための実施計画の検討（連携：九州森林管理局）	11
5-1-③	照葉樹林に親しむイベントの開催（連携：てるはの森の会）	12
5-2-①	ヤマビル生息調査（てるはの森の会）	13
5-2-②	路網整備事業（宮崎県）	6
5-2-②	遊歩道整備ボランティア作業（てるはの森の会）	14
5-2-③	照葉樹林を通しての環境教育・自然環境整備交付金（国定公園等整備事業） （宮崎県）	15
5-3-①	環境学習事業・照葉樹林ガイドボランティア事業補助（てるはの森の会）	16

6 項目：プロジェクトの情報発信	－ 情報発信及び支援の輪の拡大活動	
6-1-①	会員情報（てるはの森の会）	17
6-1-③④	普及啓発事業（てるはの森の会）	18
6-1-④	ホームページ等による情報発信（九州森林管理局）	19
6-1-⑤	フォーラムの実施（てるはの森の会）	20
6-1-⑥	事業説明会の開催（連携：九州森林管理局）	21
7 項目：照葉樹林と共生した地域づくり		
	－ 自然と共生した地域づくりへの貢献を推進する	
7-1-①	地域づくりワーキングの設置と運営・事業補助（てるはの森の会）	22
7-1-②	照葉大吊橋 森の驛運営事業（てるはの森の会）	23
7-2-①	綾町森林づくりビジョン策定（綾町）	24
7-3-①	綾町森林・林業関係検討会の開催（九州森林管理局）	25
7-3-①	ユネスコエコパークとの連携（綾町）	26
7-3-①	綾ユネスコエコパーク専門委員会、地域連携協議会への出席。綾町ユネスコエコパーク運営会議における実施計画策定支援（日本自然保護協会）	27
8 項目：生物多様性の保全	－ 生物多様性の保全管理を推進する	
8-1-①	持続的林業経営エリアにおける森林整備（九州森林管理局）	28
8-1-①	県営林造成事業（宮崎県）	6
8-2-②	綾生物多様性地域戦略実践支援事業（綾町）	29
Ⅲ	令和元年度 綾の照葉樹林プロジェクト社会的活動まとめ	30
Ⅳ	令和元年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連文献一覧	31
Ⅴ	令和元年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連新聞記事	32

第Ⅳ期短期行動計画（平成30年度～34年度）と令和元年度実施事業一覧

第Ⅳ期短期行動計画					令和元年度事業報告							
項目		第Ⅳ期課題	行動計画	実施項目	主担当	記載者	事業名	連携先	頁			
1	協働の体制づくり	綾の照葉樹林プロジェクト推進のための基盤整備	1. 協定書を見直し第Ⅴ期行動計画を作成する	①協定書を延長するとともに必要に応じて内容の見直しを検討	連携							
				②第Ⅴ期短期行動計画の策定	連携							
			2. 中長期目標と目標設定の見直し	①目標を再確認し必要に応じて見直しを検討する	連携							
				3. 運営体制の見直し	①運営体制を再検証し再構築する	連携	T	綾プロ運営体制の見直し（連携）	全	3		
			②専従職員を配置し事務局業務を行う		T	T	プロジェクト事務局運営事業（連携）	全	4			
2	照葉樹林の保護	保護林の計画的・順応的保全管理を実施	1. 保全管理計画を策定する	①保全管理計画を策定する	国							
			2. 保全管理計画に基づき適切な保全管理を行う	①巡視体制の構築	全							
				②管理施設（案内板・標識等）の整備	全							
3	照葉樹林の復元	照葉樹林への復元を推進する	1. シカ被害対策を含む効果的・効率的な復元手法を確立する	①復元手法を再検討する場を設ける	連携	国	復元手法の検討（連携）	全	5			
				②シカ被害対策も含めた復元に向けた基本方針を策定し施行する	全							
			2. 計画的な施行を実施する	①計画的な間伐の実施（国有林・県有林・町有林）	国・県・町	県	人工林から照葉樹林への復元事業		6			
				②復元見本林の整備	連携	NJ	復元見本林の整備	全	7			
				③有害鳥獣捕獲の実施	国							
			3. 復元効果を評価する調査研究を推進する	①間伐後の復元状況を評価調査実施（国有林・県有林・町有林）	国・県・町・NJ							
				②データの収集・解析、復元方法へのフィードバック方法の確立	国・県・町・NJ	国	照葉樹林復元の動態モニタリング等		8			
			4. 市民のプロジェクトへの参加を推進する	①市民参加型の復元作業の実施	国・T	国	照葉樹林復元ボランティア作業の実施	T	9			
			4	照葉樹林の調査研究	照葉樹林を適切に保全管理するための調査研究を推進し反映する	1. 協働した調査・研究の体制を構築する	①調査研究ワーキンググループの設置を含めた、調査・研究体制を検討する場を設ける	連携				
							②他のワーキンググループや調査研究機関との連携体制の整備	国・町				
2. 調査・研究のための基本方針（構想）を策定し、計画的に調査を実施する	①調査・研究の基本方針（構想）を策定	国・県・町・NJ										
	②基本方針に基づき毎年度計画的な調査の実施	国・県・町										
3. モニタリング調査の実施	①保護林・緑の回廊に関する調査	国										
	②ナラ枯れに関する調査	国・県・町										
4. 調査・研究成果の共有化及びデータベースを構築する	①GISを活用した林小班ごとの復元に必要な情報の整備	国・NJ										
	②調査・研究成果の共有化・データベース化	国・NJ										
5. 市民のプロジェクトへの参加を推進する	①市民参加型の調査研究の実施	町・NJ・T				NJ	市民参加による自然林の復元調査及び自然林の調査	国・町・T	10			

重点目標：復元手法の検討、環境教育実施計画の検討、綾プロ運営体制の見直し

第Ⅳ期短期行動計画						令和元年度事業報告			
項目		第Ⅳ期課題	行動計画	実施項目	主担当	記載者	事業名	連携先	頁
5	照葉樹林を通じた環境教育	環境教育を推進する	1. 基本計画を策定する	①基本計画を策定する	連携				
				②環境教育エリア内の必要な整備計画を策定	国	国	環境教育のための実施計画の検討	全	11
				③環境教育プログラムを検討し試行的に実施	連携	T	照葉樹林に親しむイベントの開催（連携）	全	12
			2. 大吊橋周辺、川中自然公園、大口遊歩道等の活用方法を検討する	①環境教育に関する活用方法の検討	T	T	ヤマビル生息調査		13
				②必要なルート整備を実施	県・町・T	県	路網整備		6
					T	T	遊歩道整備ボランティア作業	県	14
			3. ガイドボランティアを養成し、市民の理解を深める	③崩壊した九州自然歩道について新たなルートや歩道復旧を検討する	県	県	照葉樹林を通しての環境教育、自然環境整備交付金（国定公園等整備事業）		15
				①ガイドボランティア事業の実施・養成	T	T	環境学習事業・照葉樹林ガイドボランティア事業補助	町	16
				②ガイドを通して市民に綾プロを理解してもらうためのプログラム作り	T				
				③森林セラピーとの連携体制の検討	町・T				
6	プロジェクトの情報発信	情報発信及び支援の輪の拡大	1. 市民や企業など広く一般にプロジェクトの内容を知ってもらい、参画や会員の拡大を図る	①サポーターの募集を行い、会員を増やす	全	T	会員情報	全	17
				②パンフレット、リーフレットの作成及び配布	全				
				③ニュースレター、報告書の作成及び配布	全	T	普及啓発事業	全	18
				④HPの作成及び更新	全	国	ホームページ等による情報発信		19
						T	普及啓発事業	全	18
				⑤フォーラムの実施	T	T	フォーラムの実施		20
				⑥事業説明会の実施	連携	国	事業説明会の開催（連携）	全	21
7	照葉樹林と共生した地域づくり	自然と共生した地域づくりへの貢献を推進する	1. 市民との協働で実施する運営体制を構築し、市民が積極的に綾プロに参画できるようにする	①地域づくりワーキングの設置及び運営	町・T	T	地域づくりワーキングの設置と運営・事業補助	町	22
				②てるはの森の驛の活用方法を検討し、それに応じて必要な整備	町・T	T	照葉大吊橋森の驛運営事業	町	23
				③ふれあい調査の実施	NJ・T				
			2. 綾町の他の事業との連携のあり方を検討し、実行計画を策定する	①照葉樹林都市・綾の森林ビジョン策定	町	町	綾町森林づくりビジョン策定	国・県	24
					国	綾町森林・林業検討会の開催	県・町	25	
			3. 綾プロと綾ユネスコエコパークの連携を推進する	①ユネスコエコパークを推進する計画を策定し、実践する	国・県・町	町	ユネスコエコパークとの連携	全	26
						NJ	綾町ユネスコエコパーク関連の会議出席、実施計画策定支援	町	27
							国	持続的林業経営エリアにおける森林整備	
8	生物多様性の保全管理	生物多様性の保全管理を推進する	1. 持続的林業経営の推進	①持続的な林業経営を行うエリアにおける施行の実施	国・県	県	県有林造成事業		6
			2. 生物多様性地域戦略を推進する	①綾町の里山周辺の植生調査	町・NJ				
				②生物多様性地域戦略の実施	全	町	綾生物多様性地域戦略実践支援事業	NJ	29

国は九州森林管理局・宮崎森林管理署、県は宮崎県、町は綾町、NJは日本自然保護協会、Tはてるはの森の会の略、全は連携会議各機関

1 項目：協働の体制づくり

事業名	綾プロ運営体制の見直し（継続）	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画 -実施項目	1－3－①	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	事務局体制や各種ワーキング、研究体制を含めて、綾プロの全体的な運営体制について現状に即した在り方を検討する		

令和元年度は 5 回の検討会を行った。

【検討会の論点】

1. 連携会議会則について

- ・ 連携会議会則にある、専従職員の必要性
- ・ 事務局経費の家賃等の管理費を綾プロが負担する必要性

2. 人件費の算定方法について

- ・ 事務局の業務内容の範囲について

3. 綾プロ事務局業務に対する資金の流れについて

- ・ 行政からてるはの森の会への直接事務局経費の妥当性
- ・ 連携会議に資金を集約し、事務局業務や連携事業をおこなう団体に拠出する仕組みづくり

4. てるはの森の会の会員について

- ・ 団体の会員なのか、綾プロのサポーターなのか

5. 事務局業務の試行的な実施の提案

- ・ 事務局業務の内容を検討するため試行的に業務を実施してはどうか

1	5 月 7 日(火)
2	10 月 3 日(木)
3	11 月 22 日(金)
4	12 月 24 日(火)
5	1 月 30 日(木)

【令和 2 年度 運営体制（案）】

- 綾プロ事務局業務を試行的に、九州森林管理局と綾町が半年ごとの持ち回りでを行い、事務局体制について検討を行う。

令和 2 年 4 月～10 月 九州森林管理局 11 月～3 月 綾町

- 事務局の業務内容については、令和 2 年度に事務局運営 WG 等により検討していく予定。

1 項目：協働の体制づくり

事業名	プロジェクト事務局運営事業(継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画 -実施項目	1 - 3 - ②	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	関係機関との調整、問合せ対応、事業の企画運営などを行なう。 年 2 回開催の連携会議、7 回開催の連絡調整会議の連絡調整、資料作成等の準備を行う。		

○連携会議

回数	日時	主な議題
30	8 月 21 日	平成 30 年度の事業報告、令和元年度の事業計画 公開フォーラム「綾照葉樹林の生物多様性と恵み」 平成 30 年度綾プロ事務局経費 決算報告について
31	2 月 19 日	令和元年度の事業取組状況、令和 2 年度の事業計画 綾プロ運営の検討会について ・進捗報告と令和 2 年度運営(案) ・綾プロ 10 周年特別寄付キャンペーンについて

・連携会議の議事録は九州森林管理局

各機関担当者の数 ※連携会議名簿による	
九州森林管理局	2
宮崎森林管理署	2
宮崎県	3
綾町	3
日本自然保護協会	2
てるはの森の会	5
学識経験者	1

○連絡調整会議（隔月開催）

回数	日時	主な議題
1	5 月 7 日	研究フォーラムの延期について 令和元年度重点目標について
2	7 月 18 日	森林総合研究所 綾プロット設置 30 周年との共催イベントについて 環境教育実施計画について 第 30 回綾プロ連携会議について
3	8 月 21 日	第 30 回綾プロ連携会議について 公開フォーラム「綾照葉樹林の生物多様性と恵み」共催について
4	10 月 3 日	照葉樹林復元ボランティア作業について (11/23) 公開フォーラム「綾照葉樹林の生物多様性と恵み」共催について
5	11 月 22 日	照葉樹林復元ボランティア作業について (11/23) 環境教育実施計画について 復元見本林について
6	1 月 30 日	綾プロ事業報告、連携会議 照葉樹林復元ボランティア作業について (2/20) 環境教育実施計画について 復元見本林について
7	2 月 19 日	連携会議 照葉樹林復元ボランティア作業について (2/20) 復元見本林について

各機関担当者の数	
九州森林管理局	3
宮崎森林管理署	2
綾森林事務所	2
宮崎県	2
綾町	3
日本自然保護協会	1
てるはの森の会(事務局)	3
学識経験者	1

※平成 28 年度より調整会議の司会と議事録を 5 者の輪番制でおこなうことになった。以下、方針の抜粋。

- ・レジメの作成・印刷は、事務局（てるは）
- ・議事録当番は議事録を 5 者に回す
（日本自然保護協会は司会だけの分担）

3 項目：照葉樹林の復元

事業名	復元手法の検討(継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	3-1-①	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	復元手法検討会を開催し、照葉樹林復元に向けた手法等の検討を行う 令和元年5月7日(火) 第3回復元手法検討会の主な内容は次のとおり ○九州森林管理局の平成30年度モニタリング調査結果等について情報提供を行い、20m幅の伐採が照葉樹復元には効果的との報告に対し ・県有林では作業方法は間伐、間伐率も30%以下となっており20m幅での伐採は難しい。 ・国有林でも保安林が掛かっているため、20m幅での伐採は難しい。 ・この伐採方法では植栽等による更新も発生してくる。 ・現状の規制の中では、3伐7残が一番効率的な施行方法というところ。 ○パッチ状の皆伐箇所の設定は可能か、また、その場合のシカ対策については ・事業として皆伐を行えば、植栽木の保護という形でのシカ対策も可能と思われる。 ・シカ対策(シカ柵等)を行えばその後のメンテナンスが重要、出来る箇所が絞られてくる。 ・皆伐では伐採木の搬出が出てくるため、稚樹伐採等による復元への影響が大きくなる。 ・林野庁では、小班毎の伐採率を一定のエリアで設定できるようにする検討が進められているとの情報もあり、ある程度パッチ状の皆伐ができる所が出てくるのではと思われる。 ・シカ柵を設置し、出てきた稚樹から母樹として育てる優先的な樹種を選び、スポット的にヘキサチューブで保護する方法もあるのではないか。 ○皆伐を行えば更新が必要、植栽となればなお難しいのではないか ・場所も母樹や稚樹のある箇所を選定する必要がある。 ・ドングリの播種も選択肢の一つではあるが、今後検討の必要がある。 ・綾プロでは他の場所から持ってきた苗木等での対応が出来ないのが現状、苗木の確保も課題になる。 ・こういった手法をエリア外の里山で取り組むことを継続していき、その発展上においてエリア内での活用を模索していくことが必要ではないか。 ・ドングリもエリア内で確保し、育苗もエリア内で実施しなければならない。モニタリング等の手順を踏んで進めなければうまくいかないのではないかとと思われる。 以上		

- 3 項目：照葉樹林の復元
 5 項目：照葉樹林を通しての環境教育
 8 項目：生物多様性の保全

事業名	人工林から照葉樹林への復元事業（継続） 県有林造成事業	実施主体	宮崎県
項目-行動計画- 実施項目	3-2-① 5-2-② 8-1-①	連携先	—
事業概要 （目的）	持続的な林業経営を行うエリア等において、スギ人工林の間伐を実施する。また、森林環境教育・保健休養的利用を図るとともに、人工林の針・広混交林化を進めるエリアにおいて、獣害防除を実施する。		

※短期行動計画の内容に重複する部分があることから、2 項目の事業報告をまとめて行う。

1 間伐（列状間伐） 3-2-①、5-2-②

持続的な林業経営を行うエリア（24 林班）において、9.00ha の間伐を実施予定であったが、入札不落により、実施できなかった。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で原木価格が低迷しており事業を中断しているが、原木価格の回復を待って再度、間伐を実施する予定。

2 獣害防除（忌避剤散布） 8-1-①

（1） 場 所 25 世紀の森（カヤとスギの複層林）

（2） 面 積 3.23ha

（3） 時 期 11 月～3 月



忌避剤散布



カヤ植生状況

3 項目：照葉樹林の復元

事業名	復元見本林の整備	実施主体	NACS—J
項目-行動計画- 実施項目	3-2-②	連携先	連携会議各機関

事業概要
(目的)

国・県・町有林の各候補地と取扱い等を整理し簡易看板を設置する。

実施日：3月31日（火）

内 容：綾の照葉樹林プロジェクトでおこなう照葉樹林の復元について、その状況を広く市民に広報するため見本林の看板設置を国有林2カ所、県有林1カ所、町有林1カ所でおこなった。



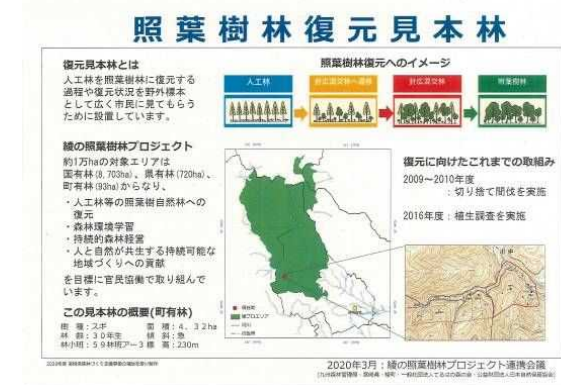
国有林看板



国有林看板



県有林看板



町有林看板

3 項目：照葉樹林の復元

事業名	照葉樹林復元の動態モニタリング等 (継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	3-3-②	連携先	—
事業概要 (目的)	人工林からの復元エリアにおいて動態モニタリング調査等を行い、今後の効率的・効果的な復元に向けた施行方法の確立を図る		

【業務名】
令和元年度照葉樹林復元の動態モニタリング調査業務

【目的】
綾プロジェクトエリアのNo.3 及び5 に設定した、各調査プロットの動態モニタリングを継続して実施し、同エリアにおける照葉樹林への復元状況を把握することを目的とする。

【調査内容】
令和元年度は、19箇所のプロットにおいてモニタリング調査を行った。

1 照葉樹林復元の動態モニタリング調査

- ・間伐試行伐採プロット（4 箇所）において、光環境調査、植生調査、土壌写真撮影調査、刈り置き残材設置状況調査を実施
- ・標準地プロット（11箇所）において、光環境調査、植生調査を実施
- ・間伐直後プロット（4 箇所）において、光環境調査、植生調査を実施

2 復元エリアにおける復元実施（間伐実施）状況の整理

- ・平成26年度に設定された、優先度区分の進捗状況を把握するために、復元エリアにおける平成30年度の復元状況を整理する

【調査結果の取りまとめ】
上記の現地調査結果を整理し、前回の調査結果と比較するなどの分析を行い、内容を取りまとめた調査報告書を作成した。
この調査結果については、綾プロにおける今後の復元手法の検討等に活用することとしている。

令和元年度
照葉樹林復元の動態モニタリング調査業務

報 告 書

令和2年3月
林野庁九州森林管理局

3 項目：照葉樹林の復元

事業名	照葉樹林復元ボランティア作業の実施 (継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	3-4-①	連携先	てるはの森の会
事業概要 (目的)	中尾(南俣)国有林において、照葉樹林復元のためのシカネット設置作業を実施		

平成17年の協定締結以降、一般企業、学生、NPO、綾町民など様々なボランティアに参加いただき、照葉樹林への復元を図るため各種作業を実施している。

令和元年度は、11月と2月の2回にわたり中尾（南俣）国有林において、シカネット設置作業を実施した。

11月の第1回目は、ソーラーフロンティア株式会社の社員とその家族21人が作業に参加、スタッフを加えた総勢40人で作業を行った。2月の第2回目は、大和ハウスの社員及び一般参加のボランティア22人とスタッフ合わせて41人が作業を実施した。

これまでのボランティア作業は、間伐を主たる作業として実施してきたが、シカによる食害等が大きいことから、今年度からシカネット設置へ作業内容を変更して実施した。

【11月の作業の様子】	【2月の作業の様子】
	
	

4 項目：照葉樹林の調査研究

事業名	市民参加による自然林の復元調査（継続） 及び自然林の調査（継続）	実施主体	NACS-J
項目-行動計画- 実施項目	4－5－①	連携先	綾町 てるはの森の会 九州森林管理局
事業概要 （目的）	ボランティアによる間伐の効果を把握すること。市民に綾プロの取り組みに関心をもってもらい積極的に参加してもらうこと。得られた結果を元に復元に向けた対策を行うこと。		

2045林班に4小班内に2008年3月10日に設定された谷沿いのKAW0803_03（11年目）、2009年11月9日に設定された台地上のKAW0911_04（10年目）の再調査とともに台地上に新規に設定されたKAW1911_24で調査した（図1）。2019年11月23日にボランティアによる防鹿柵設置に合わせて防鹿柵内（KAW1911_24）と防鹿柵外（KAW0911_04）に調査プロットを設定した。防鹿柵内外の比較が行えるようにプロットを設定した。2019年11月23日が3名（+5名スタッフ）、2020年2月20日は12名（+6名スタッフ）の参加があった。



図1 調査位置図



写真1 2020年2月20日林床調査（KAW0803_03）

5 項目：照葉樹林を通した環境教育

事業名	環境教育のための実施計画の検討 (新規)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	5-1-②	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	森林環境教育基本計画に基づく具体的な実施計画書の策定を行う		
令和元年度は、記載内容の検討を行いプログラム記載様式を作成し各機関への作成依頼を行ったが、その後記載内容の変更が出たことから、実施計画（案）の策定までには至らなかった。			

5 項目：照葉樹林を通した環境教育

事業名	照葉樹林に親しむイベントの開催 (継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画- 実施項目	5-1-③	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	町民を対象に、照葉樹林に親しむ散策や体験等を企画し、綾プロへの理解を深める		
○綾・照葉樹林ロングウォーキングは、中止 ○ 森林総合研究所九州支所綾リサーチサイト 30 周年記念 公開フォーラム「綾照葉樹林の生物多様性と恵み」の翌日 12/1（日）に 照葉樹林野外観察会を企画した。 一般参加者 24 名、スタッフ 20 名 計 44 名			

5 項目：照葉樹林を通しての環境教育

事業名	ヤマビル生息調査(継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画- 実施項目	5-2-①	連携先	—
事業概要 (目的)	川中周辺での環境教育を進めるために、阻害要因となっているヤマビルを調査し、その対策を実施する。		

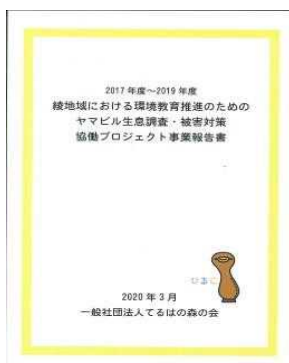
○綾地域における環境教育推進のためのヤマビル生息調査・被害対策協働プロジェクト

【生態調査】

- ①ヤマビル生息域等の現地調査 12 回 延べ 27 名
(台風被害により町内調査地への立ち入りはできなかったため、前年度と対比できる数値が 5 月に調査した 1 回だけとなった。そこでは前年度対比 50% 駆除となっている。また、中間コンサルでのアドバイスを考慮し近隣市町村での生息状況調査も同時に実施した。)
- ②川中自然公園 歩道整備 2 回
(5 月 19 日スタッフ 3 名、2 月 23 日ボランティア・スタッフ 25 名) 延べ 28 名
- ③被害モニターのための散策ツアー共同実施 9 回参加者・スタッフ 156 名
(協力：照葉樹林ガイドボランティア、綾プロ)
主催実施 1 回 25 名 (9 月台風で中止、2 月歩道整備時に被害モニターを合わせて実施)
共同・主催合わせて 10 回 181 名
- ④ヤマビル被害対策の視察と情報交換 延べ 9 名
(神奈川県秦野市、宮崎県椎葉村・西米良村にて現地聞き取り調査、他県内全市町村電話にて聞き取り調査)
- ⑤ヤマビルの吸血源を調査するための DNA 分析 100 個体実施
- ⑥ヤマビルの遺伝子型解析調査の実施
全体で延べ 245 名が参加

【普及啓発活動】

- ①ヤマビルの生態や綾町内での調査活動に関する学習会 1 回開催 116 名参加
- ②3 年間の調査内容と活動をまとめた報告書 200 部作成、ホームページにて公開中
綾町内施設や研究者に配布
- ③昨年度作成した歩道途中の注意喚起看板を設置



報告書



ヤマビル注意喚起の看板設置

5 項目：照葉樹林を通しての環境教育

事業名	遊歩道整備ボランティア作業(継続)	実施主体	てるはの森の会
項目－行動計画－ 実施事項	5-2-②	連携先	宮崎県
事業概要 (目的)	照葉樹林トレッキングコースとして、歩道の整備や看板の整備等をボランティア と行い、新たな散策ルートとして活用する。		

○板木林道（大口遊歩道）

台風による倒木があり通行止めとなったため歩道整備の活動なし

○川中自然公園 歩道整備を2回行った。

(5月19日スタッフ3名、2月23日ボランティア・スタッフ25名) 延べ28名

ヤマビル対策遊歩道整備vo.2 地球環境基金助成事業

金峰山川中嶽で一足早く、春を感じよう!

バスで
送迎
します♪

川中神社 × 山の神さまへ感謝
梅まつり × 森の落ち葉かき

川中神社にはその昔、修験道があったとの言い伝えがあり、西光寺跡や
阿弥陀堂があります。神仏習合の姿を伝えるこの山は、林業が盛んな時期
もあり、人と森の関わりがとても深い場所なのです。
この早春に山の神様に感謝し、遊歩道を多くの方が心地よく歩けるように、
落ち葉かきをします♪

川中の森とヤマビルの共存
奥山の川中嶽ではその昔、製材所があり、枕木などを製材しながらトロッコ道を西へ西へと延ばしていま
した。その名残は今、森林セラピーの遊歩道として親しまれています。しかし、散策シーズンの4月～11月
はヤマビルの活動期にあたるため、心地よく利用できるようにしたいと考えています。

開基1301年
落ち葉かきの後は、
川中神社
梅まつりで
ふるまいに
舌鼓♪

日時 2020年2月23日(日)
8:30～14:30 (受付8:15～)

定員 15名 参加費 1,000円 (川中神社ふるまいお供え金)

集合 綾町役場裏駐車場 (作業場所までバスで移動)

作業場所 川中自然公園 ※小雨決行

至 阿蘇 大形橋 至 阿蘇 大形橋 至 阿蘇 大形橋

至 阿蘇 大形橋 至 阿蘇 大形橋 至 阿蘇 大形橋

お問い合わせ FAX/0985-35-7289
申し込み方法 電話/0985-35-7288
(受付時間 10:00～17:00 平日)

メール/teruha@miyazaki-catv.ne.jp
名前・住所・年齢・電話番号
メールアドレスをお伝えください

主催：(一社)てるはの森の会 〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島2-9-6 みやざきNPOハウス403号

5 項目：照葉樹林を通した環境教育

事業名	照葉樹林を通しての環境教育（新規） 自然環境整備交付金（国定公園等整備事業）	実施主体	宮崎県
項目-行動計画- 実施項目	5-2-③	連携先	自然環境課 自然公園室
事業概要 （目的）	照葉樹林を生かした自然体験の場として魅力ある利用拠点を推進するため、九州自然歩道内の危険箇所の改善や防護柵等の設置により、安全で快適な機能を高める。		

1 ポケット式ロックネット工及び転落防止柵工の設置

綾の照葉樹林プロジェクト区域の九州自然歩道の中で、特に照葉大吊橋を中心とするエリアは、豊かな照葉樹林を堪能できる場所として多くの観光客から親しまれている。

大自然を身近に体験できる九州自然歩道に対して、利用者が安全で快適に散策できるよう、法面や路体の崩壊部分、急傾斜箇所の安全対策等を行い、危険箇所を解消していく。

◆平成30年度（繰越）実施内容

- （1） 施工場所 綾の照葉大吊橋 左岸側歩道 2042林班
- （2） 実施内容 ポケット式ロックネット工 A=60.0m²
転落防止柵工 L=6.0m
- （3） 施工期間 平成31年4月8日～令和1年6月25日
- （4） 施工主体 宮崎県（中部農林振興局）
- （5） そ の 他 10月に崩土が発生しロックネット内に土砂が堆積したため撤去を行った。



沢地形をした法面からの落石を保護



転落防止のための柵

5 項目：照葉樹林を通しての環境教育

事業名	環境学習事業 照葉樹林ガイドボランティア事業補助(継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画- 実施項目	5-3-①	連携先	綾町
事業概要 (目的)	大吊橋周辺遊歩道などで照葉樹林の貴重さや綾プロを普及させるため、照葉樹林ガイドボランティア実践活動やプロジェクトの視察対応、広報活動を行う。		

① 照葉樹林ガイドボランティア実践活動
代表的景勝地大吊り橋周辺遊歩道2km等をボランティアガイドの案内で散策する。
参加者合計 11回 134名

	日程	曜日	来訪者名(団体名・ツアー名等)	主催者所在地	参加者数
1	4月4日	木	個人客	東京都	4
2	5月9日	木	奈良ハイキングクラブ	奈良県	5
3	6月14日	金	春日山原始林を未来へつなぐ会	奈良県	5
4	6月19日	水	宮崎交通(株)※ひやらウォーク野首&吊橋	宮崎市	22
5	8月11日	日	山の日 は綾の森を歩こう	宮崎市	6
6	8月24日	土	一般社団法人 MIT	長崎県	2
7	9月4日	水	曾於市観光ボランティアの会	鹿児島県	32
8	11月24日	日	個人客	東京都	7
9	12月1日	日	番外編:照葉樹林を知るツアー	宮崎市	24
10	2月23日	日	川中神社×森の落ち葉かき	宮崎市	23
11	3月1日	日	個人客	群馬県	4
合計					134

② 照葉樹林ガイドボランティア研修
3月20日「地質・地形」研修を、後藤繁俊氏を講師に招き川中自然公園で予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

③ 山の日企画「山の日 は綾の森を歩こう」
8月11日の山の日、綾の照葉大吊橋で現地ガイド受付を限定実施。事前案内による申込者を含めて6名を案内した。

④ 自主企画ツアー「綾の照葉樹林で写真家黒木一明さんと秋の気配を探す旅」
初めての自主企画ツアーを2019年9月23日(月・秋分の日)に参加費3500円で企画し参加者8名で実施する予定であったが、前日に台風に見舞われ県道26号が通行止めとなり中止となった。

6 項目：プロジェクトの情報発信

事業名	会員情報(継続)	実施主体	てるはの森の会						
項目-行動計画- 実施項目	6-1-①	連携先	全						
事業概要 (目的)	官民協働プロジェクトを推進するため、市民参加の窓口として、てるはの森の会 会員への入会を募集するほか、賛同者の寄付による参加を募集する。								
○正会員数：R2.4.1現在 8名(内、理事5名) ○賛助会員数：R2.4.1現在 個人サポート会員 68件 法人サポート会員 16件 団体サポート会員 5件 ○会費収入：433,000円 ○寄付金収入：400,819円 <table><tr><td>イベント等募金・ その他寄付</td><td>381,909</td></tr><tr><td>てるは大吊橋募金箱</td><td>18,910</td></tr><tr><td>計</td><td>400,819</td></tr></table> 【10周年寄付キャンペーン内訳】総額532,500円 ◎寄付額：1万円未満 ・会員 40名 90,000円 ・非会員31名 40,000円 ◎寄付額：1万円以上 ・会員 22名362,500円 ・非会員 4名 40,000円				イベント等募金・ その他寄付	381,909	てるは大吊橋募金箱	18,910	計	400,819
イベント等募金・ その他寄付	381,909								
てるは大吊橋募金箱	18,910								
計	400,819								

6 項目：プロジェクトの情報発信

事業名	普及啓発事業(継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画 -実施項目	6-1-③、④	連携先	全
事業概要 (目的)	ホームページの更新やニュースレターの発行、イベントでの展示ブース出展等の広報活動を行なう。 ホームページ上にて報告書を掲載。		

○広報誌「照葉樹林だより」54号の発行（令和元年7月10日発行）
 研究「自然調査と観察は継続が力になる」
 「照葉樹林だより」55号の発行（令和元年10月31日発行）

○会報誌 表紙写真募集（令和元年7月31日）

○てるはの森の会のホームページ <http://teruhanomori.com/>
 ○てるはの森の会 facebook での情報発信

○視察対応（計6回 46名）

	日程	曜日	来訪者名	内容	参加数
1	5月9日	木	奈良ハイキングクラブ	大吊橋遊歩道と文化館	5
2	6月14日	金	春日山原始林を未来へつなぐ会	大吊橋・県道沿い・川中	5
3	8月24日	土	一般社団法人 MIT	大吊橋遊歩道・ヒアリング	2
4	9月4日	水	曾於市観光ボランティアの会	広場と文化館で説明	32
5	10月31日	木	脊梁の原生林を守る連絡協議会	役場ロビーで聞き取り	1
6	11月19日	火	㈱ブレック研究所	電話ヒアリング	1

○発表（計2回）

NO	日程		事業名	主催者名	発表者
1	12月5日	木	ヤマビル調査事業活動報告	地球環境基金(エコプロ東京)	下村
2	12月14日	土	BR情報交換会	祖母・傾・大崩ユネスコ・エコパーク推進協議会	下村

○広報（ブース出展等）（計3回）

NO	日程		事業名	参加者数
1	8月11日	日	葉っぱスタンプしませんか	3
2	8月11日	日	ヤマビル撲滅大作戦	全体把握不明
3	11月30日～12月1日		照葉樹林研究フォーラム	222



6 項目：プロジェクトの情報発信

事業名	ホームページ等による情報発信(継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画-実施項目	6-1-④	連携先	—
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトの取り組みについて、ホームページや広報誌に掲載し広く情報を発信する。		

- ① 九州森林管理局のホームページに、令和元年度までの各種取り組みについて掲載し、情報発信を行った。

九州森林管理局HP： <http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/aya/01torikumi.html>

- ② 九州森林管理局が発行する広報誌「広報九州」へ、綾プロの取り組みを掲載し広く情報発信を行った。

広報九州： http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/koho/koho_si/koho_kyusyu/index.html

【九州森林管理局HP】

【九州森林管理局 広報誌「広報九州」】



6 項目：プロジェクトの情報発信

事業名	フォーラムの実施	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画- 実施項目	6-1-⑤	連携先	森林総合研究所
事業概要 (目的)	学識経験者・市民を交えての「照葉樹林」に関する学習機会を設け、プロジェクトの普及・啓発を促進する。		

11/30～12/1の2日に渡り、森林総研綾リサーチサイト30周年記念公開フォーラム「照葉の森が育む綾の暮らし」（森林総合研究所主催）を綾プロ共催で実施した。綾町の奥山・照葉樹林帯でかつて営まれた人々の暮らしや生業を町民や広く一般市民に広め、理解を促し、世代間交流のなかで文化の継承と次世代育成につなげていくことを目的とし、かつての暮らしを紹介するトークセッション、若手世代により復元された綾神楽の披露、そして森の復元現場に設置したリサーチサイトを散策するツアーを行った。

○実施内容

	日時	実施内容	実施場所
事業内容	11月30日（土）	森林総研綾リサーチサイト30周年記念「照葉の森が育む綾の暮らし」（森林総合研究所主催）	綾高年者研修センター 116名参加
		・伝統綾神楽の奉納と復元の披露 ・照葉樹林食文化のふるまい	綾の里周辺 64名参加
	12月1日（日）	文化を育む照葉樹林の復元現場に設置したリサーチサイトを見学	大森岳林道沿い 44名参加



散策の様子



綾神楽



公開フォーラム



パンフレット

6 項目：プロジェクトの情報発信

事業名	事業説明会の開催 (継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	6-1-⑥	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	綾町町民等を対象に事業説明を行い、各機関の取り組みを普及啓発する		

綾町民等を対象に毎年実施している綾プロ事業報告を、2月9日に綾町公民館ホールで開かれた「綾町公民館大会」に併せて実施した。

当日は、多数の町民の方々が参加する中、九州森林管理局の森林施業調整官が綾プロ事業報告の一環として、照葉樹林復元ボランティア作業で行ったシカネット設置について、近年のシカ被害状況やシカ被害対策の必要性などを含め説明を行った。その後、綾中学校の生徒が総合学習「綾の森を学ぶ」で学習した成果をとりまとめて発表した。

【九州森林管理局の事業説明】




【綾中学校生徒の発表】




7 項目：照葉樹林と共生した地域づくり

事業名	地域づくりワーキングの設置と運営 事業補助(継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画- 実施項目	7-1-①	連携先	綾町
事業概要 (目的)	地域づくりWGは、綾プロジェクトの推進体制や当プロジェクトを活用した地域振興等に関する事項を検討し、住民参加を促すことを目的とする。		

本年度は、7月自費にて視察した五ヶ瀬町の農家民泊についての視察の感想発表から始まった。大人の山学校のオープン 2020 年 4 月を目指し、詳細を決めていくことにした。

①上畑自治公民館を簡易宿泊施設としての活用の検討

エコパークセンターの他、綾川荘、森の宿などを紹介し、利用客に選んでもらう事にし、まずは宿泊なしでの体験プログラムを行うことに決定した。

②環境教育プログラムの検討、

A.ひやら上畑コース（里）B.上畑公民館～県道 2 6 号～綾の里（昼食）～バスで送迎～上畑公民館

※四杖・水窪・大久保コースは少しずつ実施に向けて整備する

③研究フォーラムの復活、

・11/30～12/1 森林総研綾リサーチサイト 30 周年記念（森林総合研究所主催）を綾プロ共催で実施。「照葉の森が育む綾の暮らし」井ノ口三郎氏、番外編では綾神楽の復元披露や照葉樹林食文化の軽食、リサーチサイト散策と森の恵み弁当など、これまでの協力関係を活かして実施。

④ワーキングに新メンバーを入れる。継続 8 名、新規 1 名、てるはの森の会 3 名で実施

ワーキング委員会実施スケジュール

	日 程	委 員 会 の 内 容（議題のみ掲載）	参加人数
1	R 元年. 9 月 24 日(木) 19:00～21:00	1. 五ヶ瀬町、農村民泊視察について 2. 大人の山学校について	10 名 オブ 1
2	R 元年. 10 月 25 日(木) 19:00～21:00	1. 大人の山学校について 2. 五ヶ瀬来綾について	12 名
3	R 元年 12 月 16 日(月) 19:00～21:00	1. 大人の山学校について	10 名
4	R2 年. 1 月 24 日(金) 19:00～21:00	1. 大人の山学校について	11 名 オブ 1
5	R2 年. 2 月 26 日(水) 19:00～21:00	1. 大人の山学校について	11 名
6	R2 年. 3 月 23 日(月) 19:00～21:00	1. 大人の山学校について 2. ジビエ料理体験	10 名
7	R2 年. 2 月 4 日(月)	コース調査(四杖～大久保コース)(県有林コース)	7 名 オブ 2

7 項目：照葉樹林と共生した地域づくり

事業名	照葉大吊橋森の驛運営事業(継続)	実施主体	てるはの森の会・
項目-行動計画- 実施項目	7-1-②	連携先	綾町
事業概要 (目的)	照葉大吊橋食堂跡地において、「てるは森の驛」(1F:無料休憩所、照葉樹林に関するビデオコーナーやパネル等を展示、2F:木のおもちゃで遊べる木育体験コーナー、3F:飲食物を提供する軽食堂)を運営する。		

例年通りの活用が行われた。大雨の際、綾照葉樹林大吊橋への道が通行止めになることが多くなり、利用者の減少により、固定電話を廃止し、吊橋料金所を連絡先とした。

○3F: 飲食物を提供する軽食堂「てるは森の驛」



食堂のようす

○2F: 木育広場として活用



木育広場



○1F: 森の紹介ビデオコーナー

7 項目：照葉樹林と共生した地域づくり

事業名	綾町森林づくりビジョン策定（継続）	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	7-2-①	連携先	九州森林管理局 宮崎県
事業概要 （目的）	平成 30 年 4 月に策定した綾森林整備計画策定と関連づけて策定を行う。		

綾町森林・林業関係検討会（綾町、宮崎中央森林組合、中部農林振興局、宮崎森林管理署）の中で検討を行っている。平成29年7月に原案が策定されているが、具体的な内容について、農林振興課を中心に編集中である。



検討会等



<黒岩町有林>

7 項目：照葉樹林と共生した地域づくり

事業名	綾町森林・林業関係検討会の開催	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	7-3-①	連携先	綾町 宮崎県
事業概要 (目的)	綾町の森林・林業に関わる関係機関（綾町、宮崎中央森林組合、中部農林振興局、宮崎森林管理署）により、綾町の森林・林業が綾 BR の推進にふさわしいものとなるよう具体の解決に向けた検討を実施。		
綾町森林・林業関係検討会			
1 実施概要			
綾町の森林・林業の現状、問題、課題等についての意見交換等を行い、この結果を踏まえ、新たな綾町森林整備計画の具体的実行に向けて、課題の現計画の見直しについて検討。			
2 実施内容			
4月23日	・今年度、重点的に取り組む事項について協議した。 特に「綾の森林づくりビジョン」、「モデル林」について意見交換を行った。		
7月23日	・「綾の森林づくりビジョン」（原案）を基に、内容の充実を図るため、関係者で意見交換を行った。また、森林経営管理法施行を受け、町の当面の業務について意見交換を行った。		
8月27日	・7月に引き続き「綾の森林づくりビジョン」の内容の検討及び森林経営管理法関係について意見交換を行った。		
10月31日	・[林研グループ]の立ち上げ及び優良事例の視察について検討、「モデル林」について意見交換、森林系管理法について、森林所有者への意向調査等について議論。		

7 項目：照葉樹林と共生した地域づくり

事業名	ユネスコエコパークとの連携（継続）	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	7－3－①	連携先	連携会議各機関
事業概要 （目的）	綾ユネスコエコパークと連携することで、綾プロの認知度を高め、活動を活性化する。		

■綾ユネスコエコパーク推進の根幹となる協議会等の運営

令和元年9月 2日（月） 第9回専門委員会

令和2年 3月10日（火） 第10回専門委員会

〃 3月27日（水） 地域連携協議会

令和2年 3月17日（火） 生物多様性保全部会

〃 3月17日（火） 調査教育部会

〃 3月17日（火） 地域づくり部会

コロナの影響で延期

コロナの影響で延期

コロナの影響で中止

コロナの影響で中止

コロナの影響で中止

書面での報告

書面での報告

書面での報告

各種協議会等を上記のとおり開催した。綾ユネスコエコパークセンターの利用状況、各事業の進捗状況の報告、ユネスコへの定期報告等について協議した。



＜綾BR専門委員会＞

■綾ユネスコエコパークエリア（緩衝地域）拡張にむけた調査の実施および検討協議の推進

調査体制が整わず調査できていない。今後も九州森林管理局と調整しながら検討を進める。

■綾ユネスコエコパークエリア内における生物多様性に関わる基礎調査の実施（移行地域）

10月5日～1月21日にかけ、宮崎大学と連携して綾北川・綾南川流域の照葉樹林で野生生物調査を実施した。対象は、小型哺乳類や虫類、植物等。

■綾ユネスコ エコパーク年間活動

令和元年度活動実績 130日、158件

綾ユネスコエコパークセンターを利用した視察や小・中学校の校外学習等が多くあった。

※（ ）内は綾プロに関係するもの。

1. 視察・外部対応

2. 主催イベント・講座等の開催

3. 他者主催講座等への参加

4. 取材対応

5. 調査・作業

6. 会議・下見・打合せ等

42件（33件）

19件（18件）

14件（8件）

3件（3件）

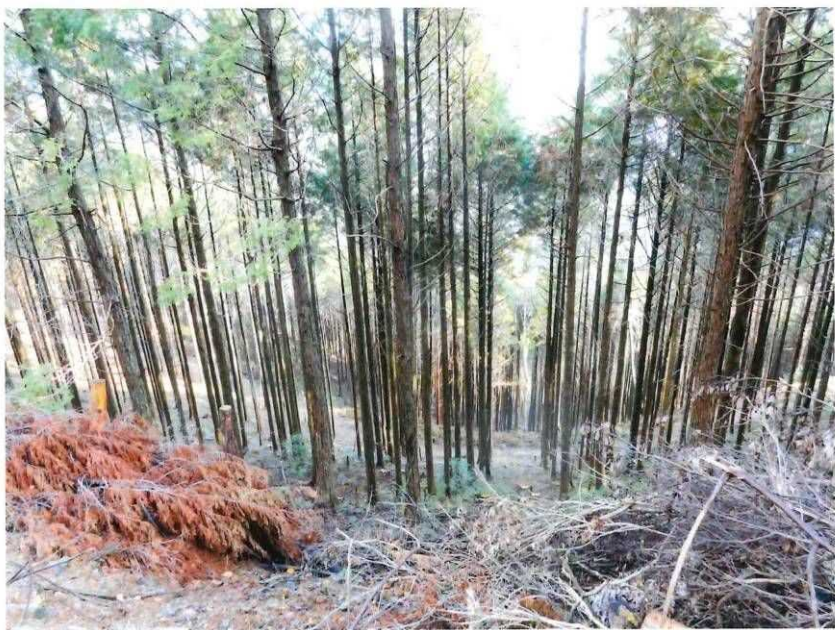
8件（6件）

72件（36件）

7 項目：照葉樹林と共生した地域づくり

事業名	綾ユネスコエコパーク専門委員会、地域連携協議会への出席。綾町ユネスコエコパーク運営会議における実施計画策定支援（継続）	実施主体	NACS-J、綾町
項目-行動計画-実施項目	7－3－①	連携先	綾町
事業概要 （目的）	地域連携協議会、専門委員会へ出席し、国内外の情報を活用してよい方向に進むようアドバイスを行う。		
令和元年度に発表された綾ユネスコエコパークを紹介した講演会や研修を示す。			
・ 朱宮丈晴（2019）：自然と共生するまちづくりー世界の優良事例とされる地域での取り組み ー 地理64-10：12-21. ・ 2019年5月12日：「ユネスコエコパークを知ろう」NPO法人はとやま環境フォーラム、かわせみハウス ・ 2019年8月22日：「ユネスコエコパーク（BR）とは何か？」上関の自然を守る会・NACS-J、マルゴトー上関まるごと博物館 ・ 2019年11月12日：「生物多様性に関するNGOの観点」、林野庁森林技術総合研修所 ・ 2019年11月30日：「森林総合研究所九州支所綾リサーチサイト30周年記念 公開フォーラム「綾照葉樹林の生物多様性と恵み」「綾の照葉樹林プロジェクトから綾ユネスコエコパークへの系譜～綾の照葉樹林と恵みの市民活動の広がり～」、森林総合研究所九州支所 ・ 2019年12月14日：九州自然協議会in鹿児島「秘境探検～海洋島の照葉樹林」、鹿児島自然観察指導員連絡会 ・ 2019年12月21日：大分自然環境研究発表会「生物多様性と自然環境保全について一人里に近い低地型照葉樹林をどのようにしたら守れるのか～綾での取り組みを通じて～」大分県 ・ 2019年9月2日：綾BR専門委員会へ出席			

8 項目：生物多様性の保全管理

事業名	持続的林業経営エリアにおける森林整備 (継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	8-1-①	連携先	—
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトの持続的林業経営エリアにおいて、水土保持機能を高めるための保育間伐等を実施した。		
綾の照葉樹林プロジェクト持続的林業経営エリア作業内容			
○ エリア⑪ 水土保持機能を高めるための保育間伐作業を実施			
間伐面積：28.31ha(2105よ外7)			
間伐状況(2105林班)			
			

8 項目：生物多様性の保全

事業名	綾生物多様性地域戦略 実践支援事業（継続）	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	8-2-②	連携先	NACS-J
事業概要 （目的）	綾生物多様性地域戦略の内容を実際に実施していくための綾町内での活動を委託する。		

■綾プロエリア内林床植生調査

日本自然保護協会、林床調査ボランティアと連携し、綾プロエリア内で実施している林床植生の調査を継続して実施。過去の調査結果との比較から、エリアにおける自然林の復元状況を把握する。

○国有林 2045 林班に 4 小班

〈第 1 回目〉

- ・日 時 令和元年 11 月 23 日
- ・参加者 8 名（ボランティア 3 名、町 3 名、てるはの森の会 1 名、日本自然保護協会 1 名）

〈第 2 回目〉

- ・日 時 令和 2 年 2 月 20 日
- ・参加者 12 名（ボランティア 6 名、町 3 名、てるはの森の会 1 名、日本自然保護協会 2 名）





令和元年 11 月 23 日

令和 2 年 2 月 20 日

林床の復元状況は、植物の種数はそれほど変化がなかったものの個体数は減少傾向にあった。

■生物多様性地域戦略実施支援

平成 26 年度に策定した生物多様性地域戦略の内容を実践するにあたり、日本自然保護協会から助言を受け、綾ユネスコエコパーク管理運営計画との整合性をはかる上で留意すべき点等についてとりまとめた。

■情報収集

令和元年度に発表された綾ユネスコエコパークに関する情報を収集した。また、令和元年度に行われたNACS-J事務局内IPBESグローバルアセスメント勉強会資料についても情報をとりまとめた。

令和元年度 社会的活動について

①綾の森に関する視察・研修・観光・学習・森づくり等対応数

A：綾プロを主な目的として対応したもの

国 別							(件数)
日本	アジア	中近東	北アフリカ	欧州	アフリカ	北米	中南米
29	1	1	1	0	1	0	0

B：綾ユネスコエコパークの一部として対応したもの

国 別							(件数)
日本	アジア	中近東	北アフリカ	欧州	アフリカ	北米	中南米
65	2	0	0	0	0	0	0

②新聞・メディアでの露出数（キーワード：「綾プロ」「BR」「照葉樹林の保護復元」）

媒 体					(件数)
新聞	雑誌/書籍	テレビ	ラジオ	インターネット	
3	2	1	0	15	

※新聞・雑誌/書籍は綾プロ報告書掲載分をカウント

③論文、寄稿、講演、表彰の数

媒 体						(件数)
論文（※1）	論文（※2）	論文（※3）	寄稿（※4）	講演	表彰	
6	0	1	1	13	0	

※論文・寄稿は綾プロ報告書掲載分をカウント

（※1）綾プロ関係者が発行者または著作者であるもの（調査報告書、事業報告、冊子含む）

（※2）綾プロ関係者以外が研究対象として綾プロの活動を取り上げ発行・著作したもの

（※3）綾プロ関係者以外が研究対象として綾プロフィールドを取り上げ発行・著作したもの

（※4）綾プロ関係者が他機関が発行・編集するものに依頼を受けて綾プロに関連することを執筆したもの

④各者の年間支出（てるは人件費・事業費の合計、その他4者は事業費のみ）

（単位 千円）四捨五入

九州森林管理局	宮崎県	綾町	日本自然保護協会	てるはの森の会
4,000	6,103	1,550	800	6,726

令和元年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連文献一覧

タイトル	発行者	発行年	事務局 / 執筆者	雑誌	種類	HP上での公開/非公開	公開しているHP名
令和元年度照葉樹林復元の動態モニタリング調査業務	九州森林管理局	2020年	九州森林管理局		報告書	非公開	—
照葉樹林だより第54号～55号	(一社) てるはの森の会	2019年	(一社) てるはの森の会		会報	公開	てるはの森の会
綾の照葉樹林プロジェクト平成30年度事業報告	綾の照葉樹林プロジェクト 連携会議	2019年	(一社) てるはの森の会		事業報告	公開	てるはの森の会
2017年度～2019年度 綾地域における環境教育推進のための ヤマビル生息調査・被害対策協働プロジェクト事業報告書	(一社) てるはの森の会	2020年	(一社) てるはの森の会		事業報告	公開	てるはの森の会
環境人間学と地域 ユネスコエコパーク：地域の実践が育てる自然保護	京都大学学術出版会	2019年	松田裕之, 佐藤哲 湯本貴和		書籍	公開	京都大学学術出版会
令和元年度 綾生物多様性地域戦略実施計画支援事業報告書	綾町	2019年	日本自然保護協会		事業報告	非公開	—
特集：自然と共生するまちづくり ユネスコエコパーク	古今書院	2019年	朱宮文晴, 若松伸彦ほか	月刊地理 vol.64-10	雑誌	公開	古今書院
特集②「ユネスコエコパーク(生物圏保存地域)～自然と人の調和と共生～」	文部科学省	2019年	日本ユネスコ国内委員会 事務局	文部科学広報 No.237	広報	公開	文部科学省

令和元年度の綾プロ関連新聞記事

掲載日	新聞社名	掲載内容
2019. 4. 24	宮崎日日新聞	《前田綾町長 辞職届》 6月上旬までに選挙
2019. 4. 30	宮崎日日新聞	《平成十大ニュース》 綾エコパークに登録
2019. 5. 4	宮崎日日新聞	《新緑みずみずしく》 綾・照葉樹林
2019. 5. 4	毎日新聞	《ユネスコエコパークを知ろう》 宮崎・綾：日本最大級の照葉樹林
2019. 6. 11	宮崎日日新聞	《綾町長に靱田氏》 2度目出馬で初当選
2019. 6. 11	宮崎日日新聞	《靱田・綾新町長に聞く》 伝統守り、より良く
2019. 8. 20	宮崎日日新聞	《鹿銀が企業向けローン》 県内エコパークなど支援へ



綾の照葉樹林 プロジェクト

発 行：令和２年９月

発行者：綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画推進連携会議

編 集：九州森林管理局

お問い合わせ先：九州森林管理局 計画保全部 計画課

〒860-0081 熊本市西区京町本丁２番７号

TEL:096-328-3613 FAX:096-325-3804

ホームページ：<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/aya/index.html>